

まちづくり委員会 委員 石原悟 報告書 2021.12.19

- ① 友人が委員をしていたので機会があれば参加したいと思っていました。
- ② 認識のずれは大いにありました。市側から頂いたまちづくり委員会資料への勉強不足の
為か、
活動の窮屈さを感じました。
- ③ 来年も委員会に参加するどうかは現時点では判断できません。
- ④ 家族や友人には就任を勧めたい。
- ⑤ ③ 自分の体調と他の活動との兼ね合いがまだ予測できない為。
- ④ 何事も幅広い経験が必要であり、良い機会と思う。
- ⑥ 委員の人数が多い程、多くの知恵とパワーが集まり活動しやすいと思う、5 人では少な
過ぎる。
- ⑦ 「現在の在り方」に対しては改善の余地はあると思います。
企画研究、実験、実施などの活動をするには活動費が必要であり、十分な経費を市側が準備
すべき。
- ⑧ 本来ならば「まちづくり」の企画・立案は行政側である市職員から出すべきであります。
碧南市では年間 3000 件の各種提案が市職員から市長に届いているとの事です。
しかも、報酬なしで積極的、自主的な改善策であり、“やる気“のある職場環境が出来てい
るようです。
「ふるさと納税」にしても年間 30 億円規模になっており、その 4 割が市の収益となっ
ているのも、
職員による貢献であります。
市民側からの力を借りたいのなら、現場がやり易い環境を準備することが第一と思います。
.....
「まちづくりまつり@新林町」
「まちづくりまつり」のイベントとして、ステージ・パネル展・マルシェなど多くの内容が
有り、
又、新しい時代に合った「e-Sports 大会」を取り入れた事により、町内会レベルでの地域
活性化の
モデルケースとして、「まちづくり委員会」から提案できるものと思います。
各町内会にしても、人口・施設・財政・構成住民状況によっても事情が異なるとは思いますが、単なる
同好会的なイベントよりも「祭り」を意識した町内融和・協力の方針も有りと思われます。